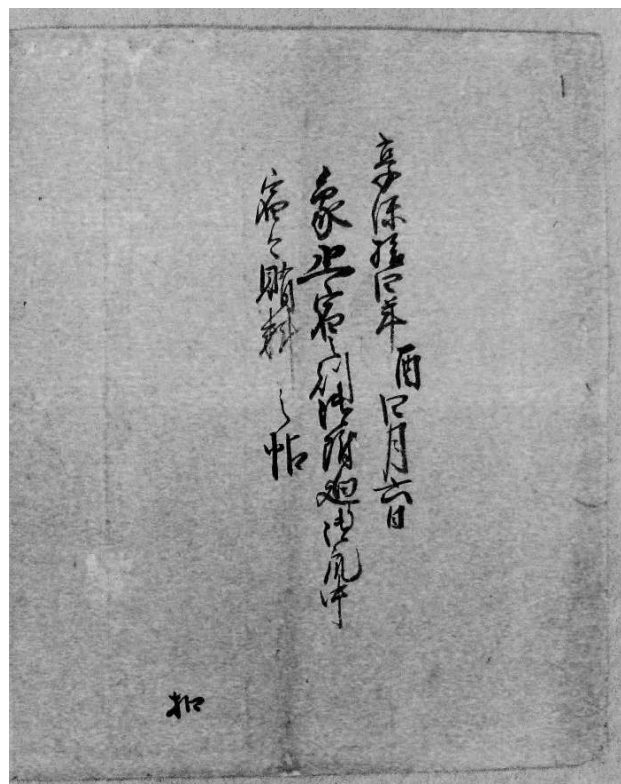
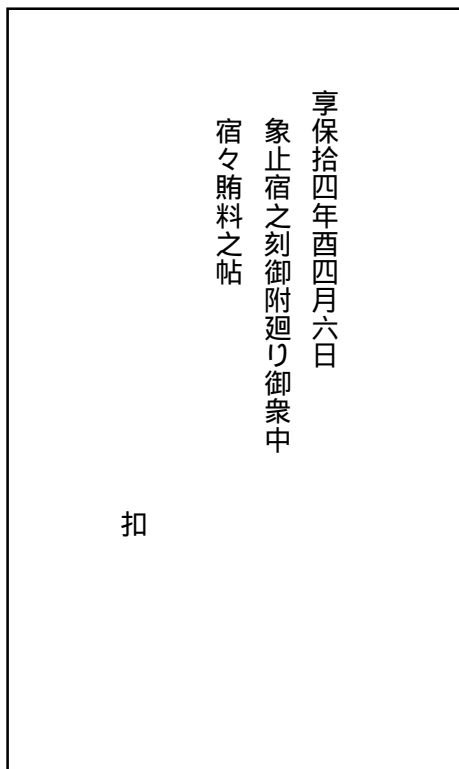


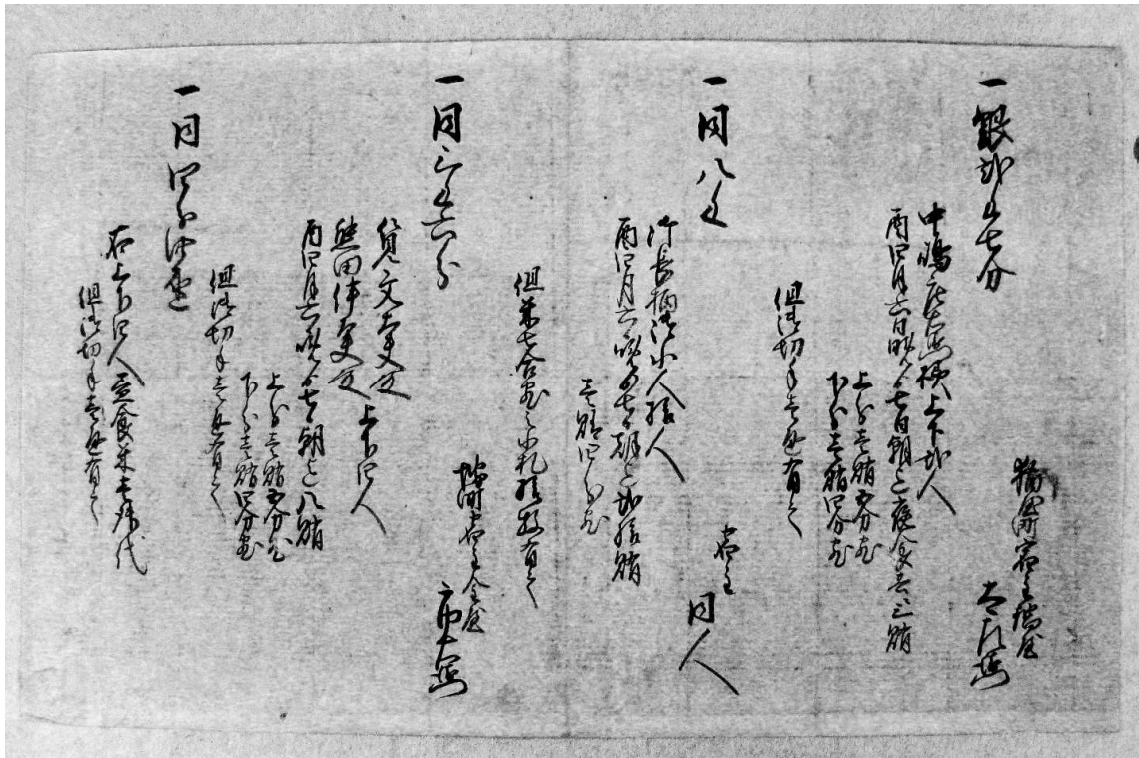
象止宿之刻御附廻り御衆中宿々賄料之帖(断簡) 享保14年(1730)4月6日

久枝家文書(8905-1)

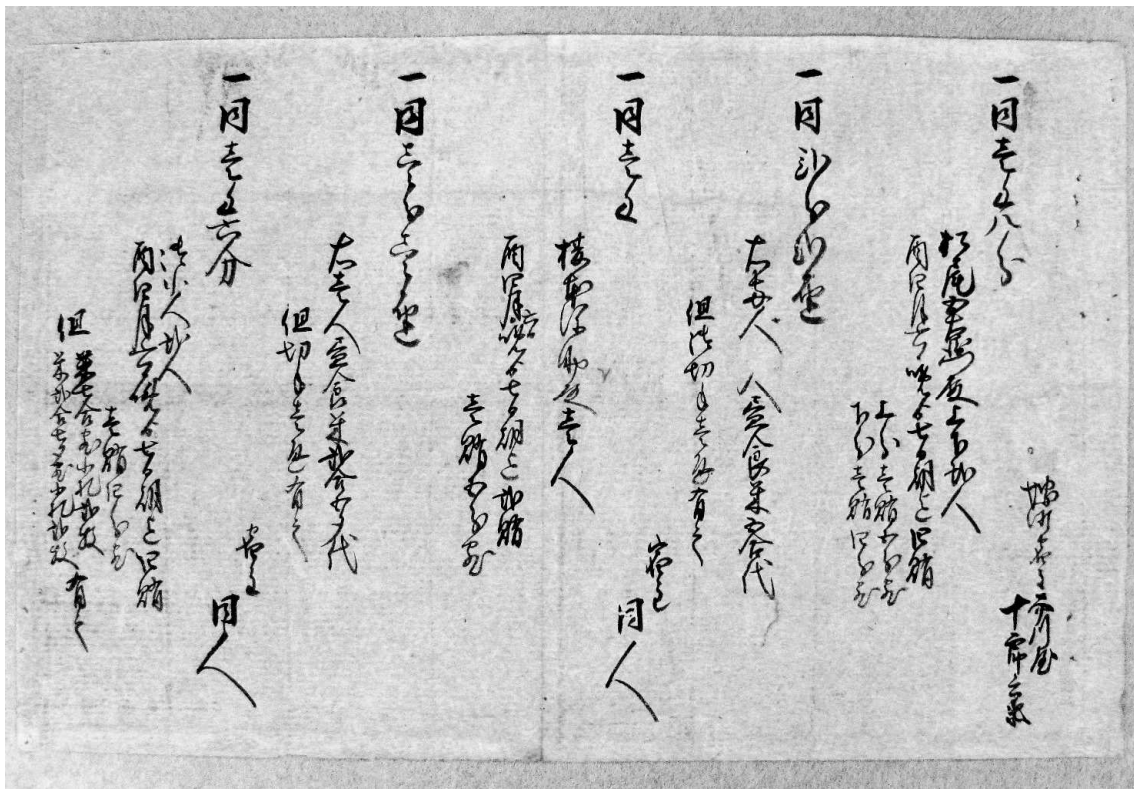
象は4月6日に広島城下に到着した。その宿所は、広瀬組堺町二丁目(現広島市中区堺町一丁目)あたりの馬継場の後庭があてられ、隣家の芥川屋との境の塀をくりぬいて小屋を作り泊ませた。当時在国中の藩主浅野吉長も、同町内の沢村屋まで出向き、噂の珍獣を見物した。この文書は、象に付き従った武士や従者たちの宿泊に関する資料で、その運送に関わった人々の階層構成や止宿した諸経費、彼らを宿泊させた町人の名前を知ることができる。

なお、この4枚の文書はもともと帳面であったと思われる。文書が残されたのは、宛所となっている城下広瀬組の大町年寄芥川屋と考えられるが、これが見つかったのは、山県郡北広島町大朝の郷土史家久枝秀夫氏(故人)宅の襖の裏張りからである。広島城下芥川屋に伝わった帳面が、襖の下張りの材料としていつの日か山県地方まで流れていたわけである。

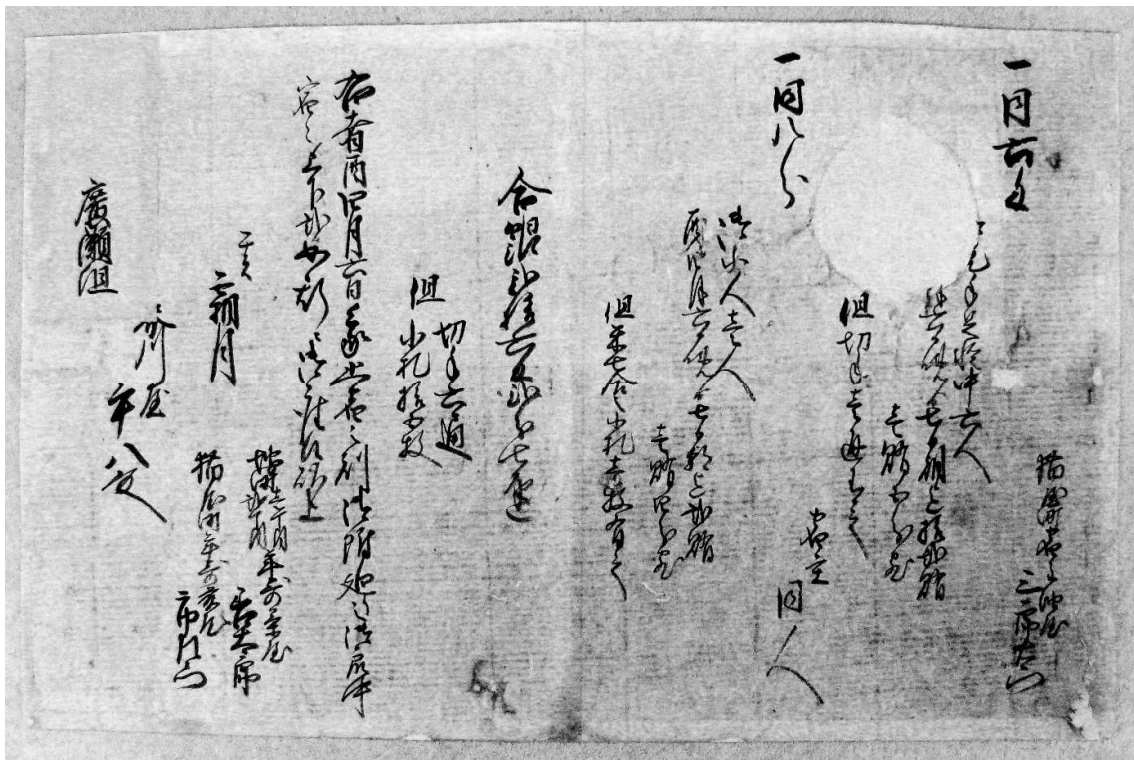




銀式匁七分	猫屋町宿主鍋屋 太左衛門
中嶋庄右衛門様上下式人	
西四月六日晚夕七日朝迄夜食共二三賄	
上分吉賄五分宛	
下分吉賄四分宛	
但御切手言通有 <sub>レ</sub> 之	
同八匁	宿主 同人
御長柄御小人拾人	
西四月六日晚夕七日朝迄式拾賄	
吉賄四分宛	
但米七合宛之小札拾枚有 <sub>レ</sub> 之	
堺町宿主金屋	
同三匁六分	市右衛門
算文大夫殿	
上下四人	
熊田伴大夫殿	
西四月六日晚夕七日朝迄八賄	
上分吉賄五分宛	
下分吉賄四分宛	
但御切手言通有 <sub>レ</sub> 之	
同四分四厘	
右上下四人昼食言升代	
但御切手言通有 <sub>レ</sub> 之	



同言刃八分	堺町宿主芥川屋 十郎兵衛
松尾五右衛門殿上下式人	
酉四月六日晚夕七日朝迄四賄	上分言賄五分宛 下分言賄四分宛
同式分式厘	
右兩人 人昼食米五合代	
但 御切手言通有 <sup>レ</sup> 之	宿主 同人
同言刃	
榎本弥助殿言人	
酉四月六日晚夕七日朝迄式賄	言賄五分宛
同言刃言厘	
右言人 人昼食米式合五勺代	
但 切手言通有 <sup>レ</sup> 之	宿主 同人
同言刃六分	
御小人式人	
酉四月六日晚夕七日朝迄四賄	言賄四分宛 米七合宛小札式枚 米式合七勺宛小札式枚 有 <sup>レ</sup> 之



同六分	猫屋町宿主油屋 三郎右衛門
一 手足輕中六人	
西四月六日晚夕七日朝迄拾貳賄	吉賄五分宛
但切手書通有レ之	宿主
同八分	御小人言人 同人
西四月六日晚夕七日朝迄貳賄	吉賄四分宛
但米七合之小札書枚有レ之	
合銀貳拾六匁貳分七厘	
但切手六通	
但小札拾五枚	
右書西四月六日象止宿之刻御附廻り之御衆中	
宿々上下式カ如レ斯二御座候 以上	
亥	堺町 吉丁目 年寄茶屋 善太郎
霜月	猫屋町年寄藤屋 市左衛門
芥川屋	
平八殿	
(貼紙)	
「廣瀬組」	